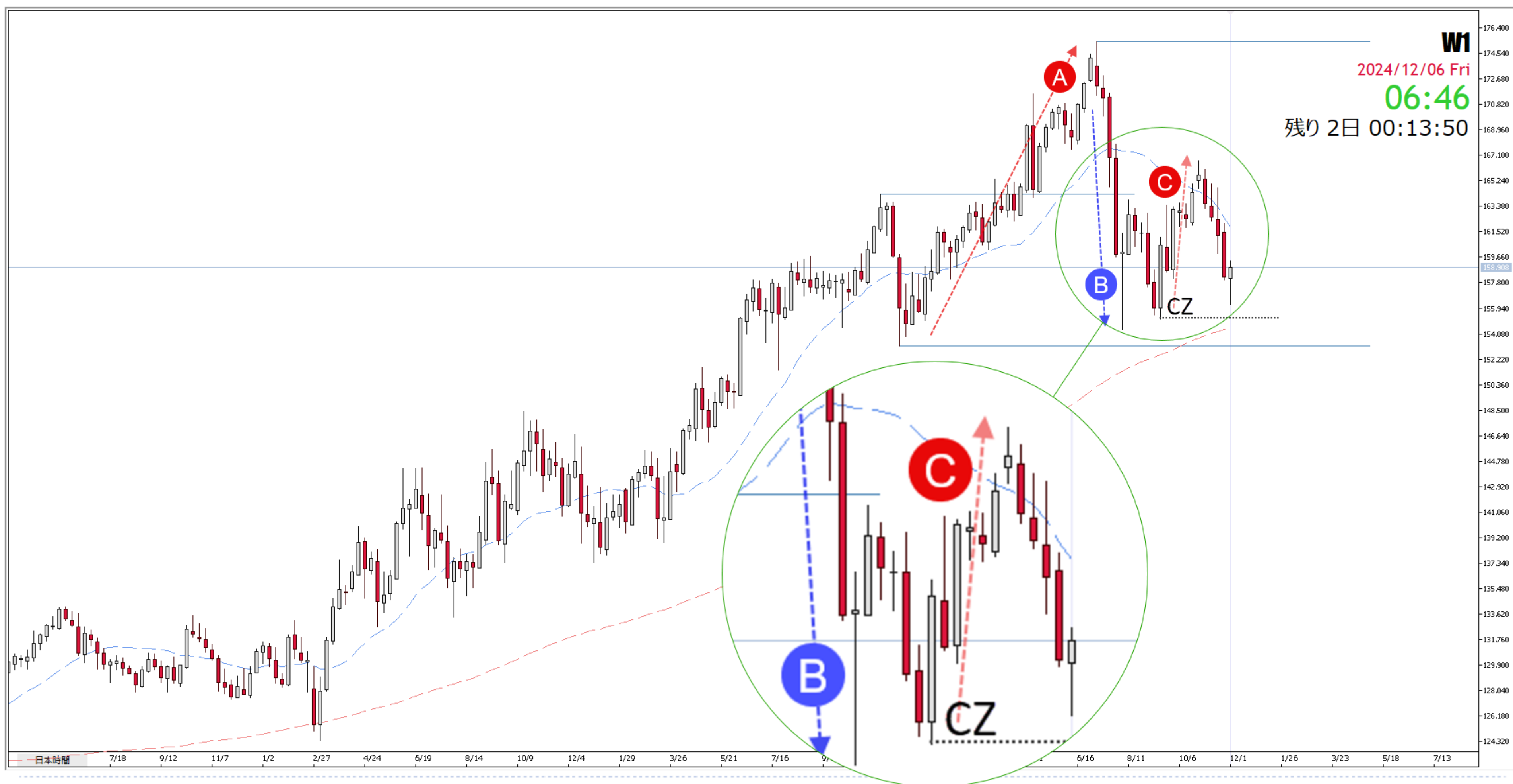
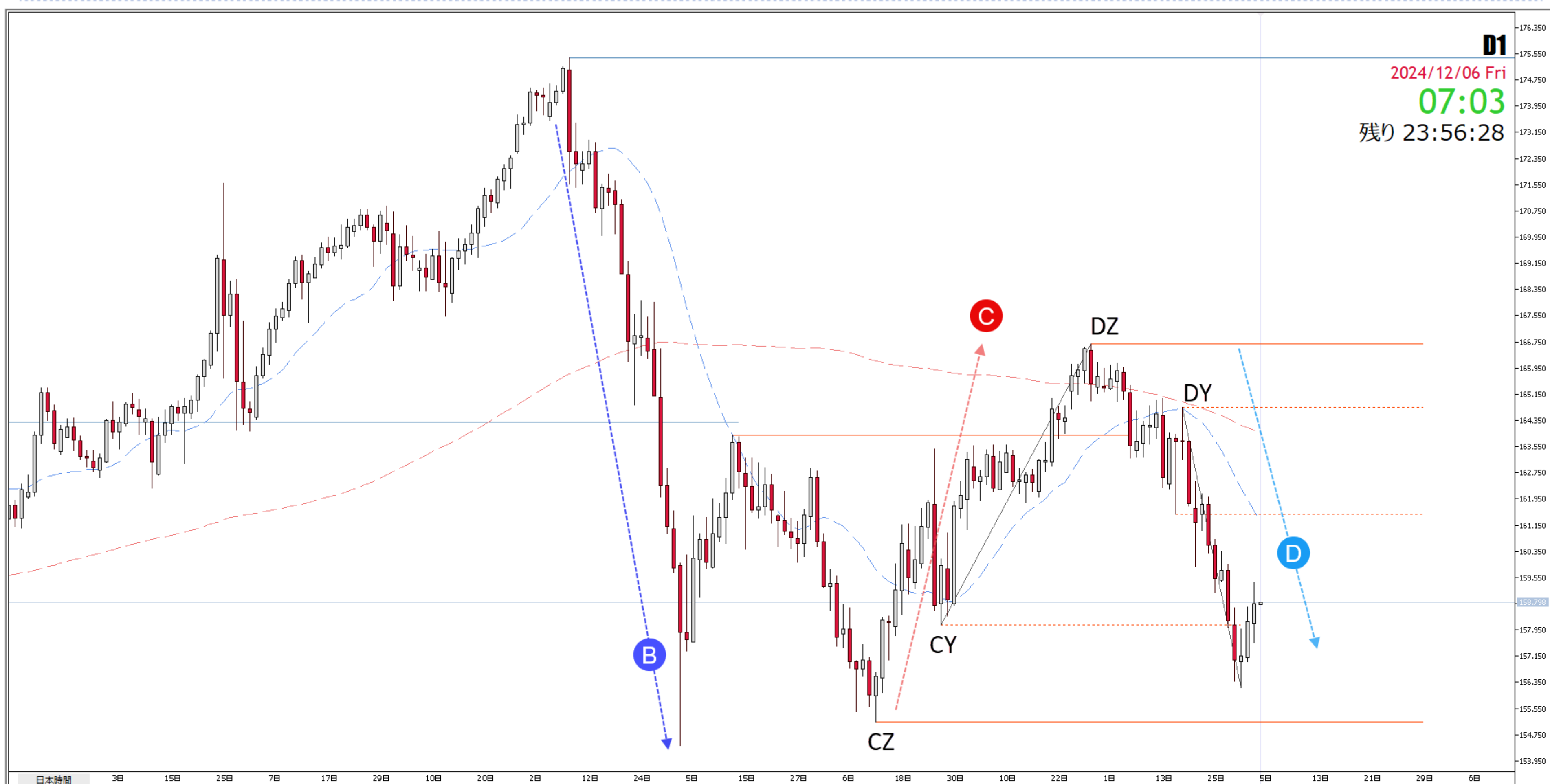


TITLE:	2024年第49週振り返り	カテゴリー	振り返り
SUB:	長期足	DATE	2024/12/6(金)



■ 週足

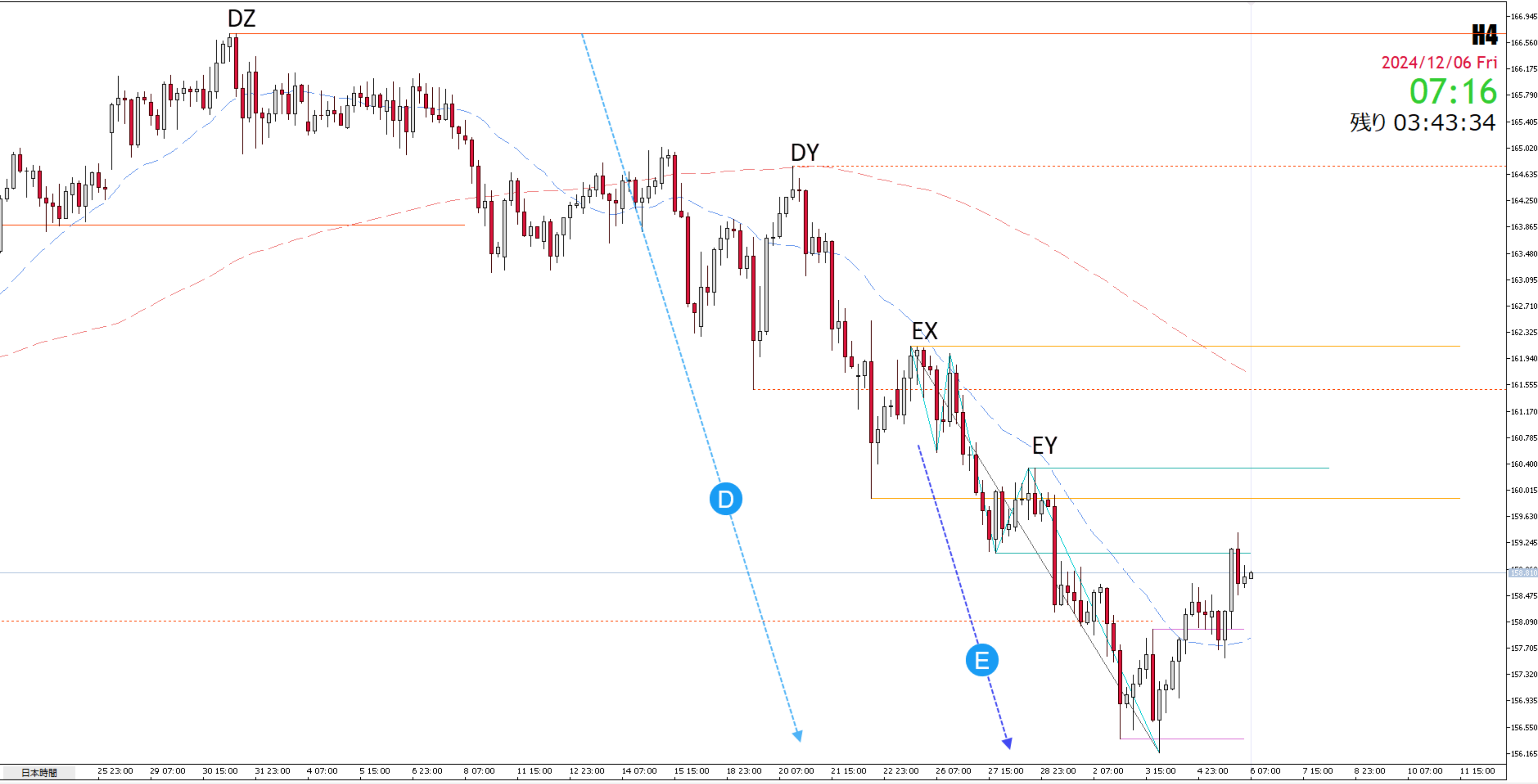
④に対し上目線、⑤に対し下目線の中、⑥が発生していて、その⑥に対しては上目線だ。⑥のサポート最深部に突き刺さっており、現状安値czが死守されている状態。



■ 日足

週足㊸の下落の中で㊿の上昇があり、その㊿の上昇波の中で更に㊾の下落が起こっている。㊿波の節となる安値cYが折れているので現状㊾優勢の状態だ。高値dYを切り上げられなければ、下優勢が継続となる。

TITLE: 2024年第49週振り返り	カテゴリー 振り返り
SUB: 長期足	DATE 2024/12/6(金)



■4時間足

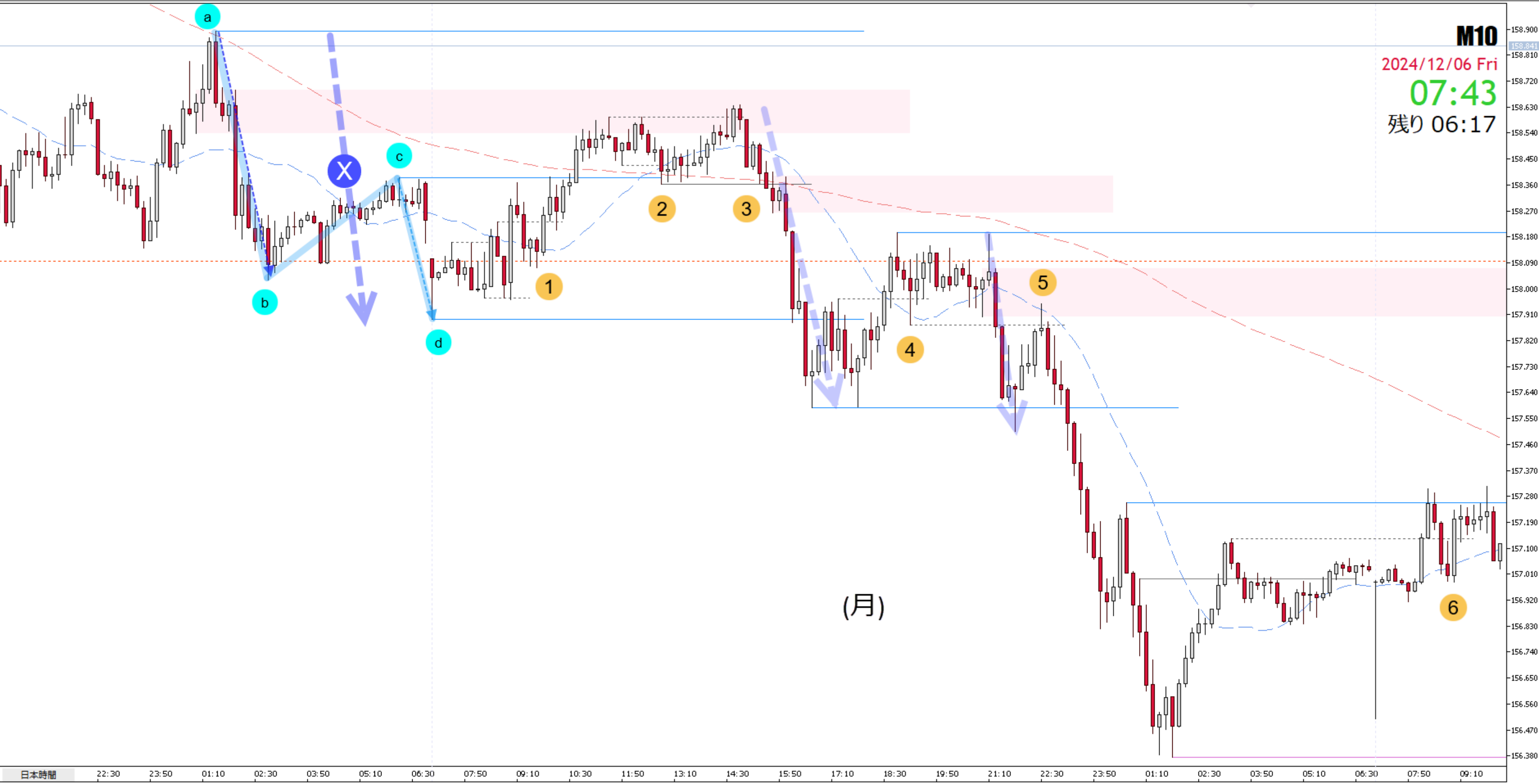
日足⑩の下落の中、⑨の下落の波があり、更に⑨を構成しているトレンドの波EYに対して下目線中。ただし下位足では既にダウの転換が起こっており、この高値EYを目指していると言える。



■1時間足

先週金曜日に起きた強い下落に対しトレンドが発生、継続となった。しかし水曜日にはこのトレンドは転換し、木曜日はこの上昇⑦-⑧に対する押し目が拾われる形となり、上昇⑨-⑩が生まれている。短期足で月曜日から順に話を振り返っていこう。

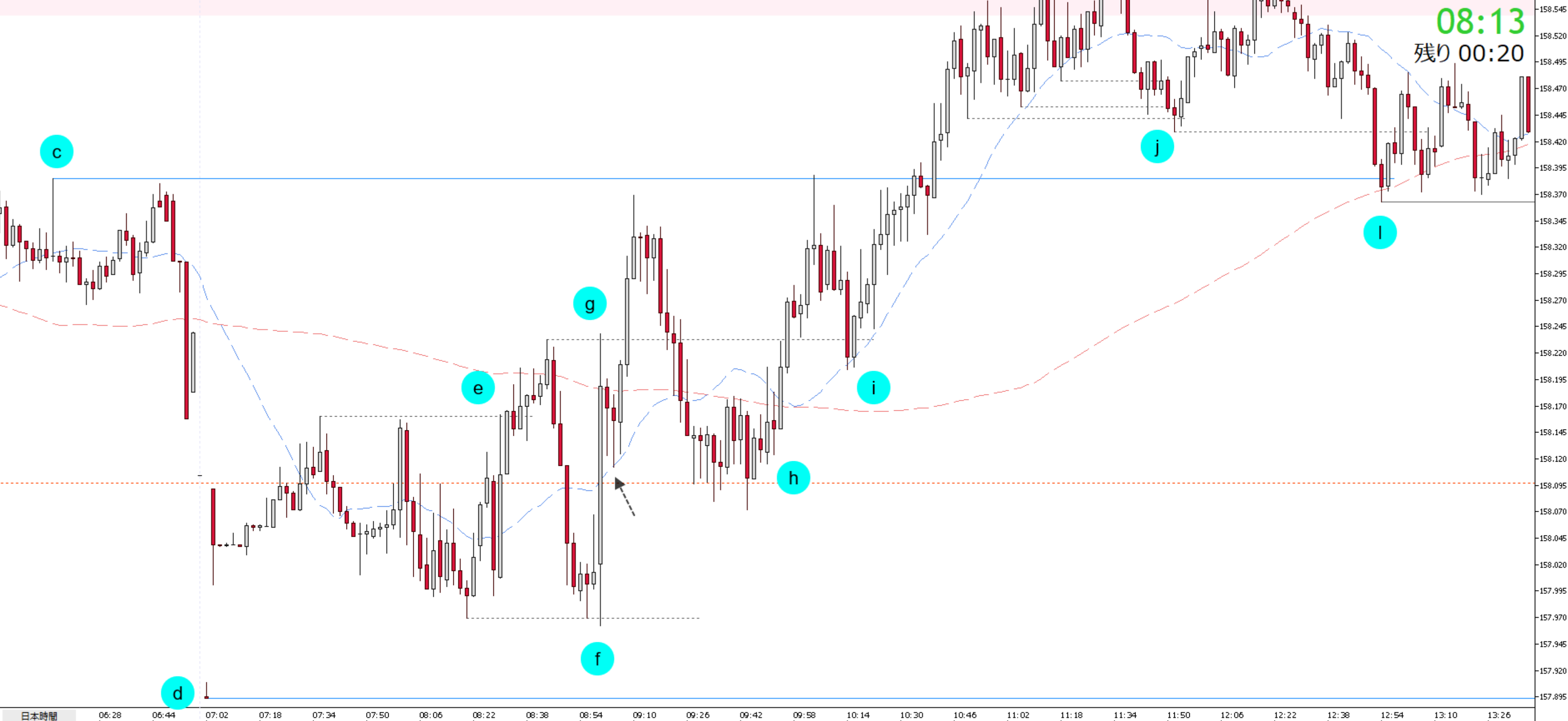
TITLE: 2024年第49週振り返り	カテゴリ 振り返り
SUB: 短期足① 月曜振り返り	DATE 2024/12/6(金)



■10分足@月曜日

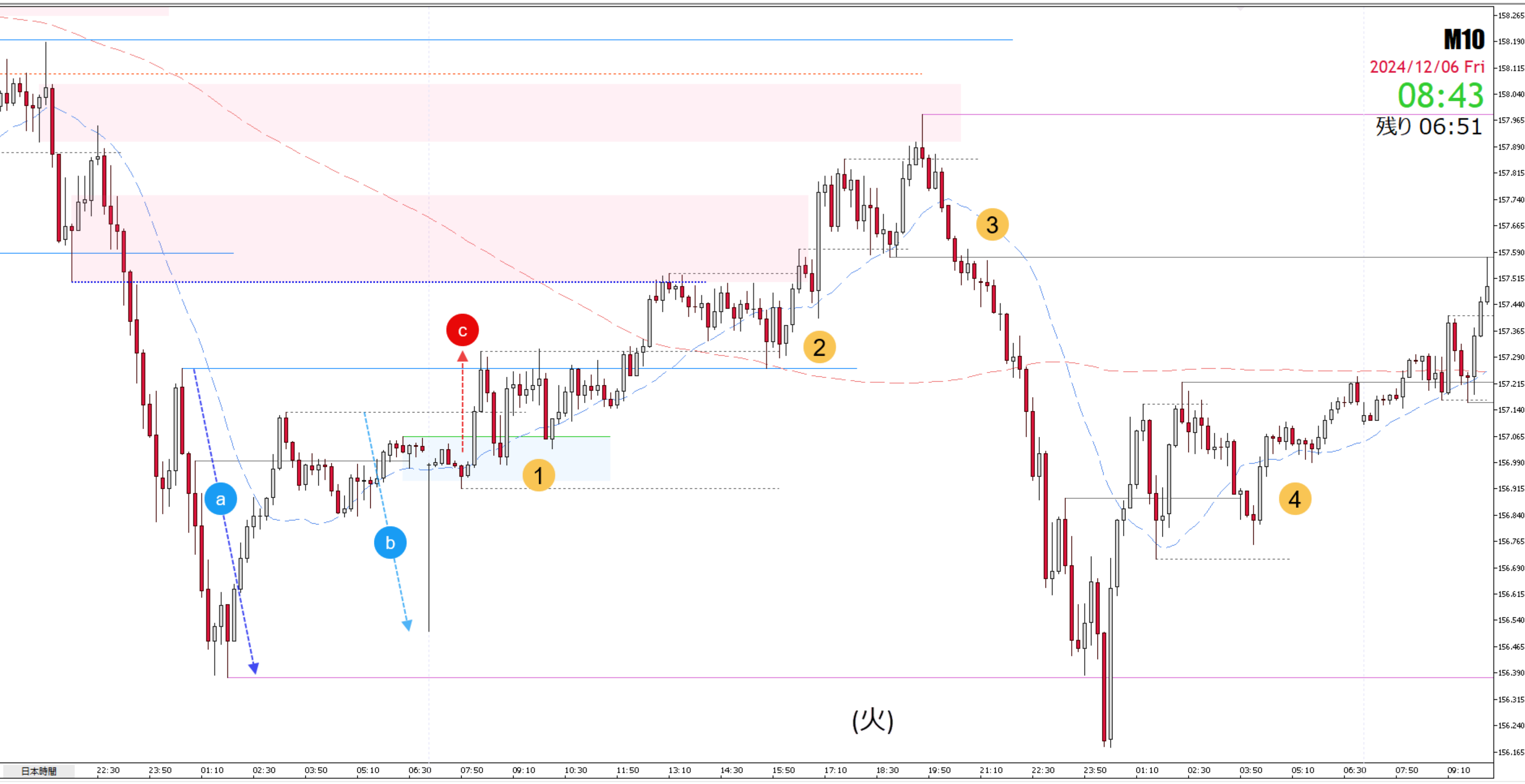
下落サンダー①②③④で1本の下落波ⓧと見た時、当然この波に対しての目線は下となる。レジスタンスの候補は上記⑤となる。⑤の定義は「起点」であり、上昇から下落に転じた波の根元となる。月曜日は話すポイントが多すぎるので、ここでは①だけに留めておく。

■ド短期ポイント①



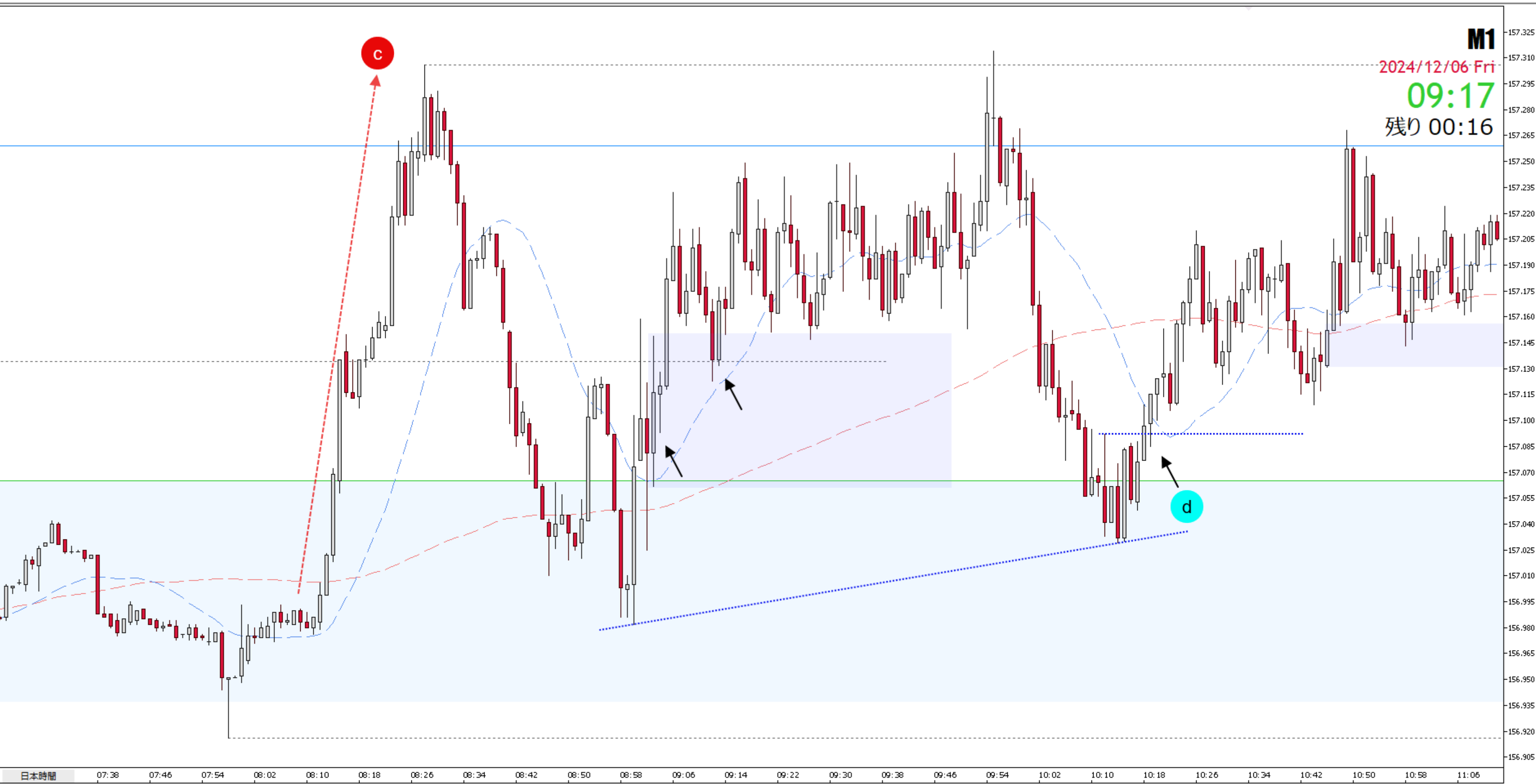
波③-④の中で「下に向かった」と言える波はあったか？それは波⑥-⑦である。そしてこの波⑥-⑦の戻り売りがまったく入らずに方向転換を起こしてきた「上向きの波」⑦-⑧に対して押し目を狙っていたのが月曜日の開幕トレードとなった。黒矢印は直接拾い、⑧は下げ止まりのパターンを待ってから入っていた。高値③ブレイク後は下落波ⓧの起点となるレジに突き刺さっていたため、ロングは控え、ショートで入れるタイミングを待つことにした。

TITLE:	2024年第49週振り返り	カテゴリー	振り返り
SUB:	短期足② 火曜振り返り	DATE	2024/12/6(金)



■10分足@火曜日

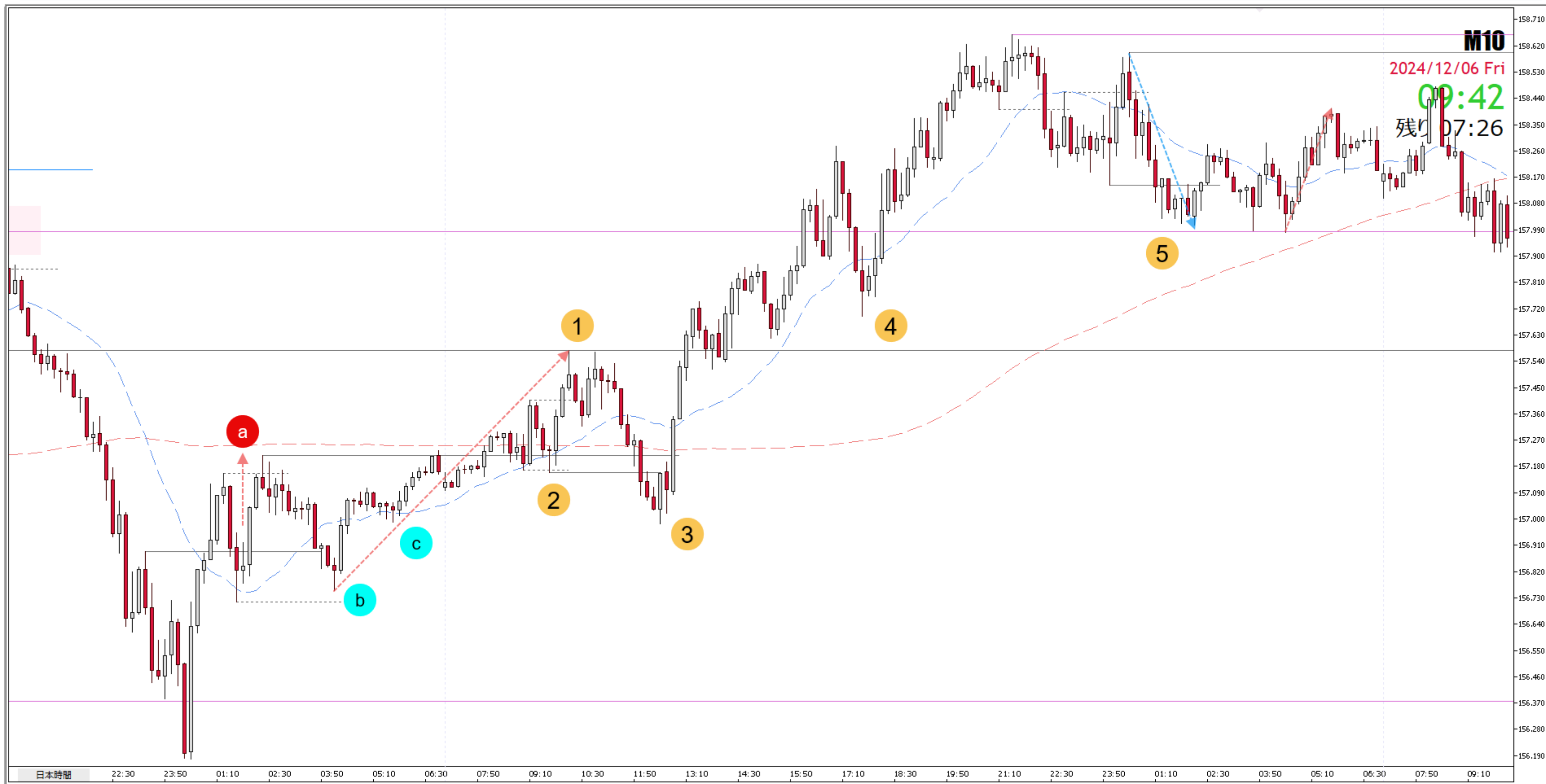
①に対して②で下を向いたがその戻りが完全に失敗してできた波③に対してのロングを狙っていった。ポイントは①と②付近になる。②の上昇以降はレジに突っ込んでいる状態だと認識していたため買いは控え、ショートエントリーのタイミングを待った。



■1分足ポイント①

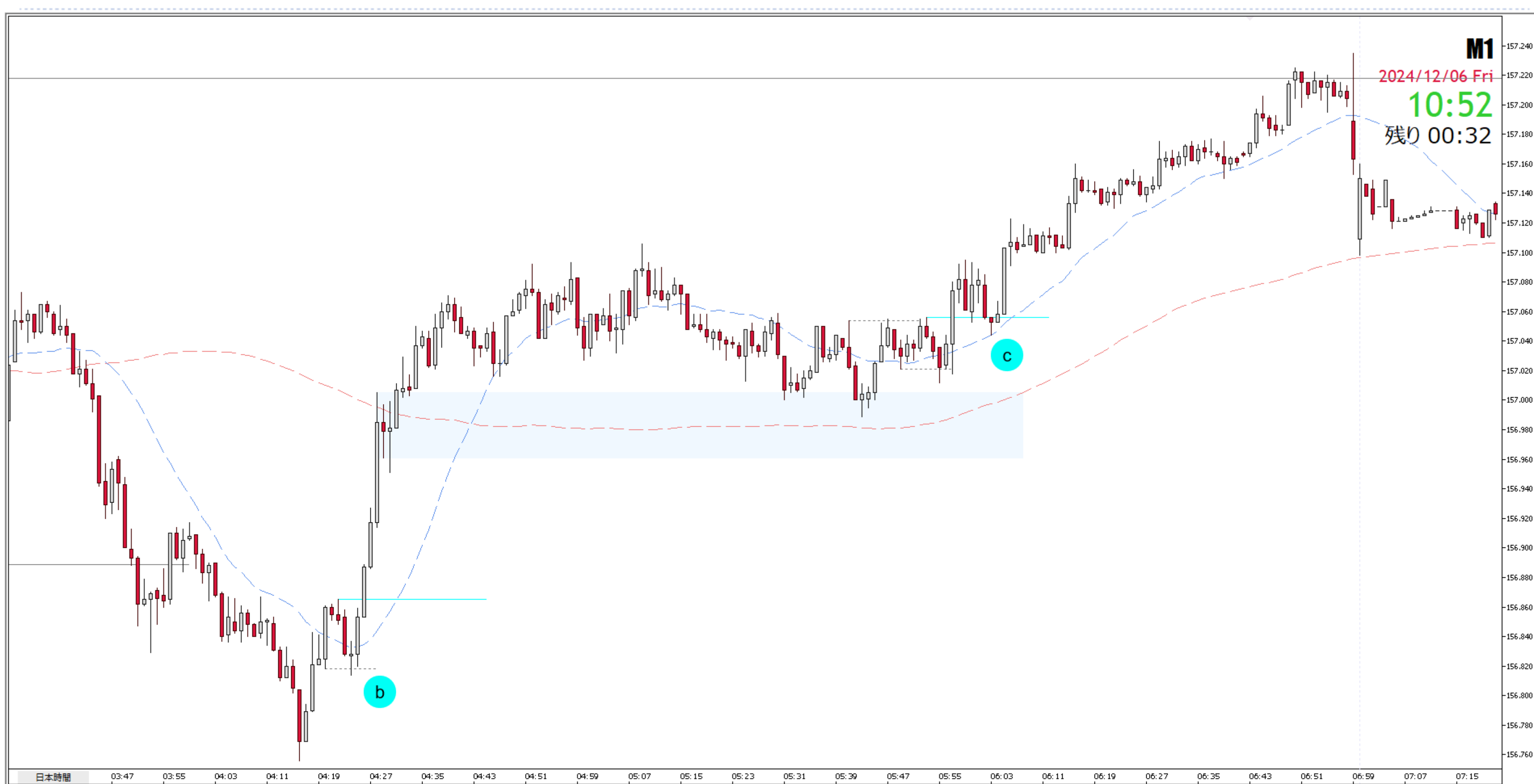
③に対して上目線で見えていたが、落ちてきたところを直接拾っていくようなトレードはせず、サポートで下げ止まるのを待った。実際に入ったのは黒矢印で直近高値ブレイクで利食いし、次は安値の切り上がりを狙った位置④を拾って上のレジで利確。その後は行方を見守りながら10分足②のポイントで再度ロングエントリーをしていった。

TITLE: 2024年第49週振り返り	カテゴリー 振り返り
SUB: 短期足③ 水曜振り返り	DATE 2024/12/6(金)



■10分足@水曜日

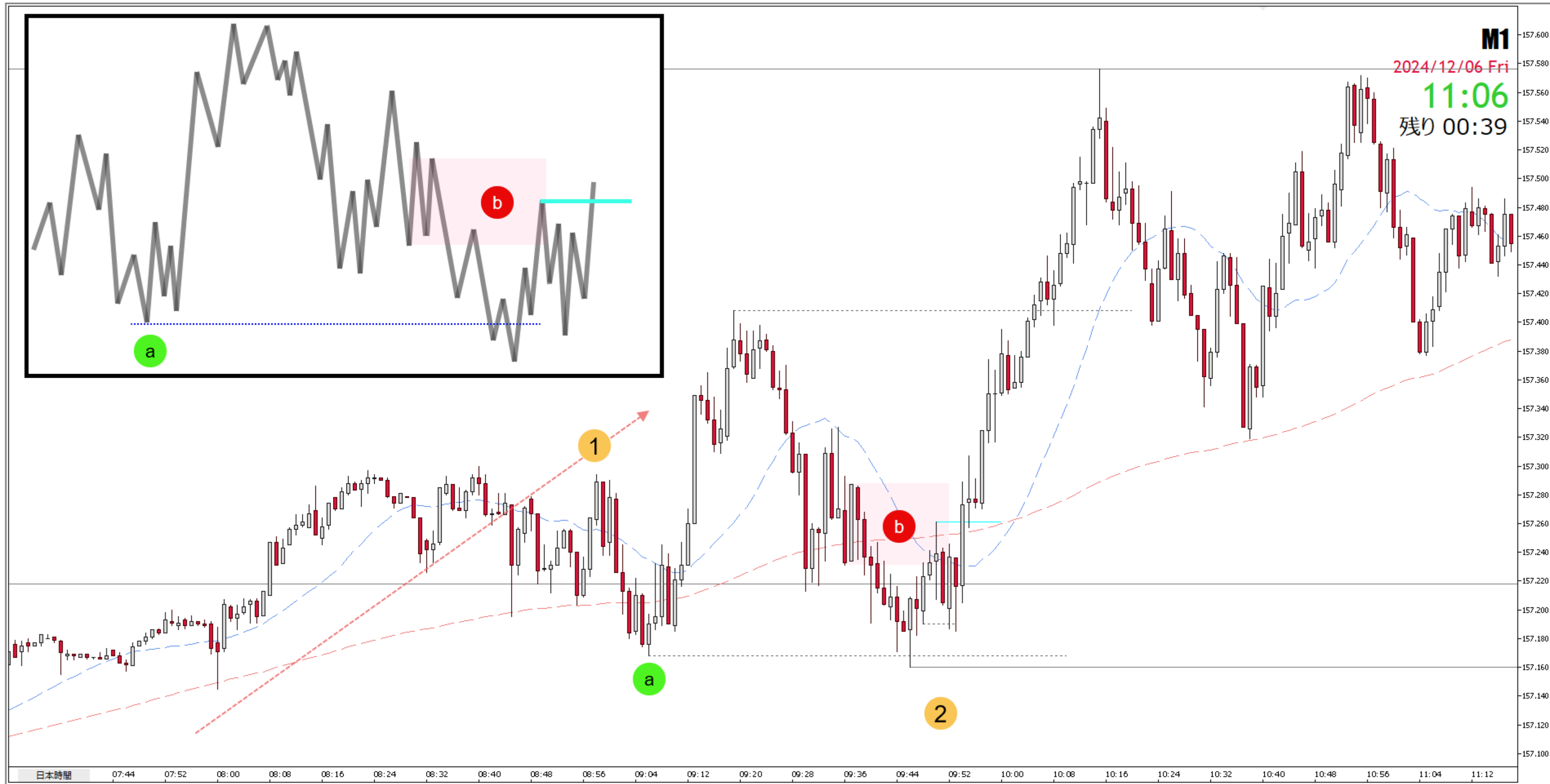
③で上昇トレンドが確定。これが崩れてからまた上がって行くのか、そのまま安値を更新してしまうのかを見守りつつロングのチャンスを見た。①の上昇が発生した時点で②の押し目は強気で狙えた。また形ができればと考えていたポイント③。夜中から早朝にかけてだが、一旦完全に下を向いた波④の右側は、両目線となり難しい場面であると認識していた。



■1分足ポイント①

③の上昇トレンドの安値付近までレートが降ってきた際に、いい形が出たので飛び乗り。その後③も拾いやすい形が出てくれたので入っていった。また①の上昇が確定した段階で③のポイントは押し目買いが積極的に狙っていける場面だった。②と③の考え方は似ているので参考にされたし。次ページで詳細を解説していく。

TITLE: 2024年第49週振り返り	カテゴリー 振り返り
SUB: 短期足③b 水曜振り返り	DATE 2024/12/6(金)



■1分足ポイント②

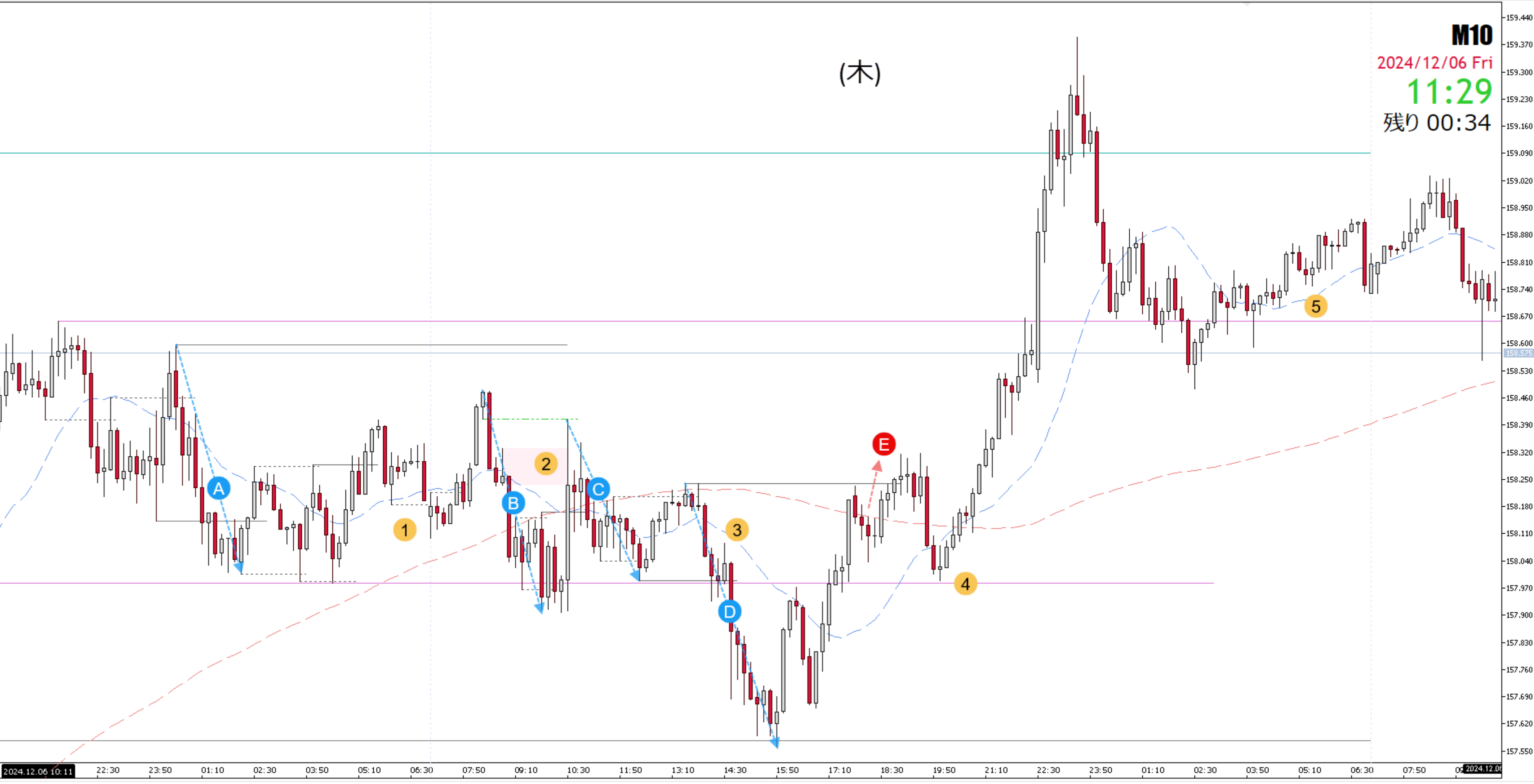
安値㉓が崩れて上昇波①はトレンドに転換が起こった。わたしの波の見方は後にサイトで詳しく解説するか、動画にしていこうと考えているが、トレンドを構成している先端のダウが崩れたくらいでは目線は変えない。むしろ下げ止まれば買いで攻めていく。ここも同じで㉓のレジから売りが入ったにもかかわらず落とせなかった＝上がるというわけで黒矢印でロングした。



■1分足ポイント③

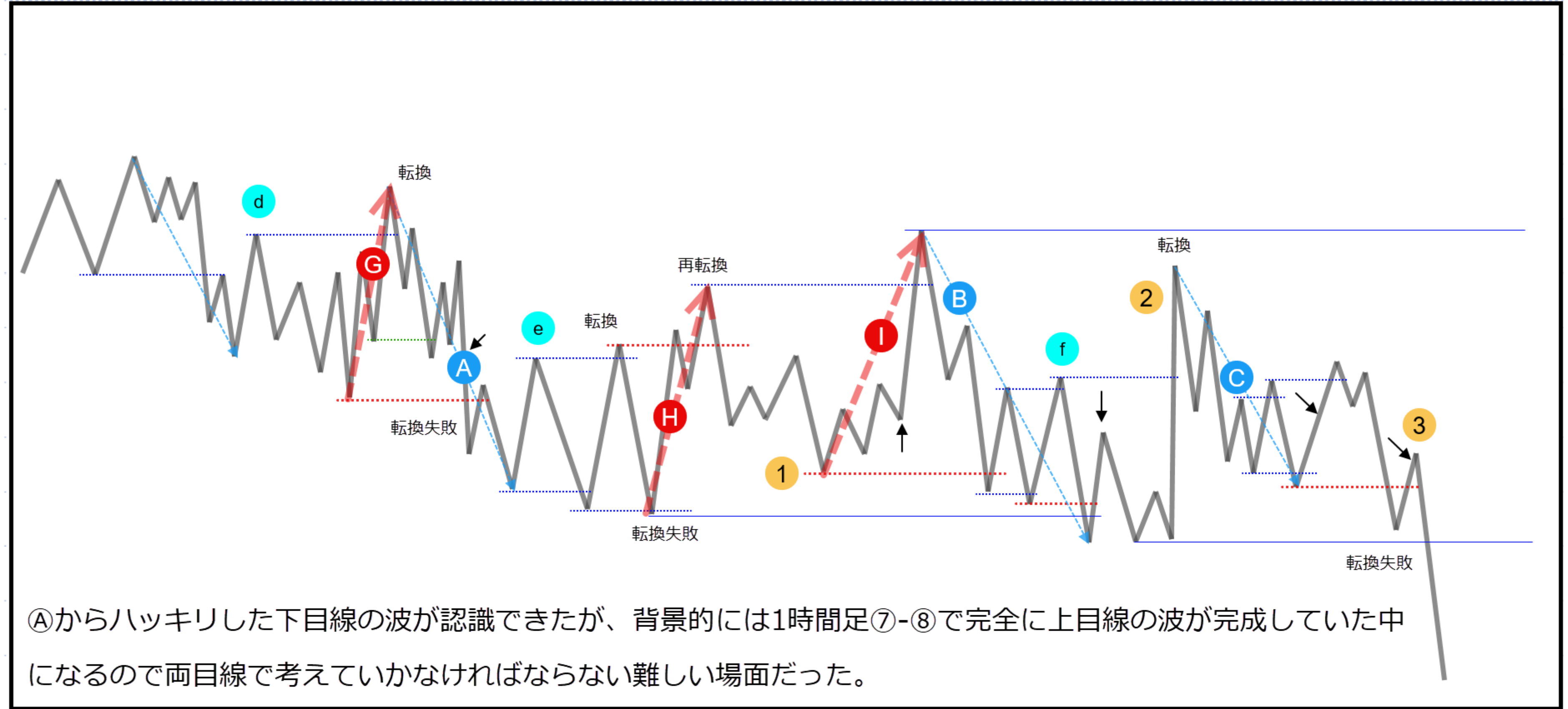
ここも基本的には同じで10分足の上昇①を構成するダウこそ崩れたものの、そこは既にサポートとなり得る位置だと考えていたわたしは下落波㉓に対して下げ止まりを待ち、下げ止まったと判断できたところからロングエントリー。レジで8割ほど利食い、残りを伸ばしてみるというスタイルでトレードした。上下のトレードポイントで重要なのは何を持って下げ止まったと判断ができるのかである。ヒントは“発生した上昇が一旦崩れている”だ。

TITLE: 2024年第49週振り返り	カテゴリー 振り返り
SUB: 短期足④ 木曜振り返り	DATE 2024/12/6(金)



■10分足@木曜日

この日も話すことが非常に多いため、短期足のトレードポイントはそれぞれ実際のチャートを見て確認してほしい。ここでは10分足のみの解説に留めたい。



■10分足の波を可視化

㊦の高値がブレイクされたことで「転換」この上昇の押し目は入らず「転換失敗」今度はここに戻り売りが入らず「再転換」と目線は二転三転することとなった。相場はこういったことが頻繁に起こるため、わたしは「転換」で目線を切り替えることはしないし、転換後の押し戻りを直接入っていくことはしない。またこの状況では、相場が「上」と言ってくるまでは「下」で攻めていることが多い。上と言ってくるとは、ここでは上昇波㊦の高値を㊨がブレイクした場合を言う。もしくは㊦でつけた高値を㊨や㊦がブレイクした後だ。それまでは基本ショートで攻めていく。また、㊦も㊨も㊦もまだ両目線で見えていた場面だが、㊨の安値が割れてからは下目線のバイアスが一段上がる。そして㊦発生後のショートは見送る。ここは1時間足でまた次のサイズの押しが買われるサポートゾーンになるからである。